

探求の論理による義務論理の再構築

北園 純也 (Junya Kitazono)

専修大学

伝統的な標準義務論理 (Standard Deontic Logic, SDL) は、Arthur Prior が提起した「派生的義務のパラドックス」や Roderick Chisholm が精緻化した「義務違反 (contrary-to-duty) のパラドックス」といった根源的な課題を抱える (Prior 1954; Chisholm 1963)。これらの問題に共通するのは、第一の義務が破られたという「理想的でない」状況において、第二の (しばしば第一の義務と矛盾するように見える) 義務が如何にして生じるかという点であり、規範的文脈の動的なシフトを静的な論理体系が捉えきれないことにその根本的な原因がある。

本発表は、この課題に対し、質問の論理的研究 (質問論理) が提供する新たな解決の途を論証する。中心的主張は、義務違反という出来事を、単なる事実の告知ではなく、「この新たな、次善の状況において何をすべきか？」という暗黙の問いを喚起する情報更新として捉え、パラドックスを「問題管理 (issue management) の失敗」として再診断することにある (van Benthem & Minică 2012)。静的な論理体系である SDL は、この「問いの喚起」とそれに伴う「文脈シフト」のメカニズムを欠いているため、矛盾に陥るのである。

この分析のため、質問を論理分析の中心に据える二つの現代的フレームワークを統合的に援用する。第一に、Andrzej Wiśniewski の推論的質問論理 (Inferential Erotetic Logic, IEL) は、ある知識状態から問いが如何に推論的に導出され、より単純な問いへと分解されていくかという、探求の「プロセス」をマクロな論理として捉える (Wiśniewski 1995, 2013)。第二に、Ivano Ciardelli, Jeroen Groenendijk, Floris Roelofsens らによる探求意味論 (Inquisitive Semantics, InqS) は、文の意味そのものに情報提供と問題提起のポテンシャルを内包させることで、言語表現の「内容」をミクロな論理として再定義する (Ciardelli et al. 2018)。これら二つのアプローチは相補的であり (Wiśniewski & Leszczyńska-Jasion 2015)、Prior の創始的構想、Nuel Belnap の応答中心モデル (Belnap & Steel 1976)、そして Johan van Benthem の動的認識論理 (DEL) の発展の先に位置づけられる。

本発表の分析は二段階で進められる。第一に、義務違反パラドックスの動態を、Johan van Benthem の DEL の形式的ツールを用いてモデル化する。これにより、義務違反の告知がエージェントの認識状態を更新し、それが義務的な問題更新を引き起こして新たな問いを喚起するプロセスを捉える、探求の動的義務論理の素描を提示する。この枠組みでは、義務違反義務は、この喚起された問いへの応答として位置づけられ、矛盾なく文脈シフトを記述することが可能になる。

第二に、近年の認識論における探求規範 (zetetic norms) の概念を導入し (Friedman 2013)、多くの実践的義務の前提となる情報探索の役割を「問う義務 (duty to inquire)」

として形式化する可能性を探る。例えば、医師が「患者に正しい薬を投与すべきである」という第一の義務は、まず「患者の病気を知るべきである」という第二の認識的義務を、さらにその前提として「病気を特定するための探求（検査等）を行うべきである」という第三の探求的義務を要求する。この規範の階層構造を、質問に対する義務演算子を導入することで形式化し、規範的推論における情報探索の役割を明確に位置づける。

本アプローチは、古典的パラドックスの解消に留まらず、規範的推論が単に与えられた規範から結論を導くだけでなく、能動的な情報探索と問題解決のプロセスを内包することを示す。これにより、例えば、機械倫理における自律エージェントの規範的推論モデルや、法的推論における証拠収集の義務の分析など、より現実に即した義務論理の構築に貢献することが期待される。探求の構造を理解することは、義務の構造を理解するための不可欠な一歩なのである。

参考文献

- Belnap, N., & Steel, T. (1976). *The Logic of Questions and Answers*. Yale University Press.
- Chisholm, R. M. (1963). Contrary-To-Duty imperatives and deontic logic. *Analysis*, 24(2), 33–36.
- Ciardelli, I., Groenendijk, J., & Roelofsen, F. (2018). *Inquisitive Semantics*. Oxford University Press.
- Friedman, J. (2013). Question-directed attitudes. *Philosophical Perspectives*, 27(1), 145–174.
- Prior, A. N. (1954). The paradoxes of derived obligation. *Mind*, 63(249), 64–65.
- van Benthem, J., & Minică, Ș. (2012). Toward a dynamic logic of questions. *Journal of Philosophical Logic*, 41, 633–669.
- Wiśniewski, A. (1995). *The Posing of Questions: Logical Foundations of Erotetic Inferences*. Kluwer Academic Publishers.
- Wiśniewski, A. (2013). *Questions, Inferences, and Scenarios*. College Publications.
- Wiśniewski, A., & Leszczyńska-Jasion, D. (2015). Inferential erotetic logic meets inquisitive semantics. *Synthese*, 192, 1585–1608.